



温かい人間関係が育まれた背景

給食キネスから得たもの

「うちそつまでした！」
「今日も残しゼロだ！」

教室で、みんなのうれしそう
な声が聞こえる。三年一組では
「給食キネス」という取組を続け
ている。「給食キネス」とは、ク
ラス全員が給食を残さず、「何日
完食できるかを競う取組である。
すでに二十一日目を更新した。
ここまですべてペースで来ている。
もっともっと記録をのばしてい
きたい。」

そんなある日、ぼくの苦手な
メニューが出た。ぼくのきらい
な物は、パプリカやトマト、ケ
ーキなどの甘い物。まさにぼくの
きらいな物が集まった最悪な給
食が出てしまった。それを見た
ぼくは、一しゅんで食べる勇気
をなくしてしまった。だけどぼ
くは必死で食べようと思った。
だけど、イヤイヤ食べていた。
ふと周りを見るとみんな美味そ

うに食べている様子が目に入っ
た。ぼくが嬉しそうに
食べている顔があった。だから
ぼくも頑張ろうと思って一口ず
つ口に入れた。だけど、体が受
けつけない吐きそうになるほ
ど気持ち悪くなり、しまいに交
な汗が出てきた。
「これはもうヤバイ、食べられ
ない。」

と、とうとうぼくは断念してし
まった。心の中は泣きそうだっ
た。今日は二十二日目を更新す
るはずだったけど、ぼくのせい
ですトップしてしまった。クラ
スのみんなにぼくのせいで悔し
い思いをさせてしまった。ぼく
は悲しかった。けれど、クラ
スのみんなは、ぼくを責めなかつ
た。それどころか、また一日目
から始めようとはげましてくれ
た。今度ぼくがぎゃくの立場に
なったら、クラスのみんなをは
げましたいと思った。このクラ
スは最高だ！

このクラスは最高だ！

この作文は、町内小学校の三
年生児童が書きました。担任は、
飛び上がりたいほどうれしくて、
学級の人みんなに読み上げます。
明るくあたたかな空気で満たさ

れ、誰もが笑顔になったと言
います。「給食キネス」の目的が、
残菜をゼロにすることであつた
なら、こうはなりません。真の
目的がありました。それは、学
級への所属感や連帯感を高め、
「この学級でよかった。」とい

思いを児童が感じることでした。
得意や苦手、考えや立場が違う
一人一人が、違いを理解し合っ
て認め合うことで、あたたかな
集団が形成されます。つまり、
互いを尊重し合う学級づくりを
目的にしていたからこそ、心か
ら喜びが込み上げてきたのです。

「ひとり」を大事にする 集団であるか」という視点

この作文を読んで、「ひとり
を大事にする集団であるか」と
いう人権尊重の視点について考
えてみました。人は、何かの、
どこかの集団に属しています。
望んで所属する集団もあれば、
社会との関わりで所属する集団も
あります。そこでは、「集団」と
「個人」の思いが一致しないこと
があります。そうした時、「何
であの人は自分勝手なんだ。」
「みんなの気持ちを分かってい
ない。」等と、ぶつかります。
集団が個人を思いやるやさしさ
を失うと、個人は息苦しさを感
じます。「その人にも何か事情
があるのではないか。」「歩み寄
ることはできないだろうか。」と、

立ち止まって考えることが大切
です。つまり、「ひとりを大事
にする集団になっているか」と
いう視点です。もともと集団に
所属するのは個人です。誰もが、
この視点をもって考えれば、よ
り良い集団づくり、ひとりの人
権を尊重することにつながりま
す。

日本国憲法第十二一条には、
「わたしたちの基本的な人権は、
不断の努力によって守っていか
なければなりません。また、わ
たしたちは、これを自分勝手に
使ってはなりません。いつも、
世の中全体の幸福を考えて使う
必要があります。」(憲法をやさ
しくした文)と表記されていま
す。ここに表されている「不断
の努力」の一つとして、「ひとり
を大事にする集団」という視点
で考えることはどうでしょう。
冒頭の三年生の作文「また、
一日目からはじめよう。」とい
う仲間の言葉、「逆の立場になっ
たら、今度はぼくがみんなを励
ますよ。」という児童の言葉には、
より良い集団・社会を築くヒン
トがあると感じました。